

都市開発ケース・スタディ：カムデン・ハイラインとベルリン・ラドバーン

カムデン・ハイライン

ロンドン北部の 1.2 キロにわたる高架鉄道路線は廃線以降、過去 30 年間使われていない。新しい緑地と交通網を構築するためのクラウド・ファンディング計画の提案者らは、この鉄道路線がビクトリア朝（19 世紀）の時代遅れのインフラを成長する都市のためにいかに再利用するかの鍵を握るかもしれないと提唱している。カムデン・ハイラインは、ニューヨークのハイライン¹の成功を再現しようとする試みであり、ニューヨークのハイラインは（東京の代官山を含め）世界中から賞賛され模倣しようとする関心を集めてきたが、そのスポンサーは AI やその他先端技術を駆使して新しい都市生活のあり方を創造できると期待している。

この計画はまだ実現可能性の検証段階であるが、「クラウド・ファンド・ロンドン²」から資金を供給したロンドン市長のサディク・カーンを通して、カムデン区議会から英国政府に至る幅広い支持を得ている。廃線区間の線路は既存のロンドン・オーバークラウンド鉄道網であるノース・ロンドン線³と併行しており（カムデン・ロード駅が特にわかりやすい）、旧ノース・ロンドン鉄道のブロード・ストリート駅が 1986 年に閉鎖されたことに伴い廃止された（ノース・ロンドン鉄道の他の区間は後に初期のドックランズ・ライト・レールウェイ⁴の基盤となり、イースト・ロンドン線の区間は 2012 年のロンドン五輪のために延長された）。



（ノースロンドン線側）



（廃線側）

ノース・ロンドン線（写真左）と廃線（写真右）が併行したカムデン・ロード駅

¹ かつての高架鉄道線跡を活用して建設されたニューヨーク市マンハッタンにある全長 2.3km の空中公園。 <https://www.thehighline.org/visit/>

² <https://www.london.gov.uk/press-releases/mayoral/sadiq-khan-invests-over-400k-in-local-projects>

³ <https://lasttrain.co.uk/tube-train-lines/london-overground-tube-train-lines/north-london-line-stations-map/>

⁴ <https://www.visitlondon.com/traveller-information/getting-around-london/docklands-light-railway-network>

この計画は、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）の研究者オリバー・オブライエン氏が綴ったブログから構想を得た、Business Improvement District（BID）⁵のカムデン・タウン・アンリミテッドによって生み出された。オブライエン氏は、グーグルのストリートビューでこの廃線を偶然見つけ、ニューヨーク市にとってハイライン緑地遊歩道が都市資産となったのと同じように、この廃線を再利用しようと呼びかけた。二期目の公約として地域活性化機関をさらに増やすことに注力したボリス・ジョンソン前ロンドン市長が尽力し続けたおかげで、ロンドンでは現在 50 の BID が設立されている。

この計画が成功すれば、新しい緑地の動脈がカムデン・タウンの観光名所とキングス・クロスの新しい再開発地区を結ぶことになる。キングス・クロスは、ロンドンのハイテクハブとして知られるオールド・ストリート「シリコン・ラウンドアバウト」を急速に凌ぎ、グーグル（ユーチューブを含む）とフェイスブックが新しい本社を設置する予定で、エクスペディア（トリバゴとホテルズ・ドットコムを含む）、トヨタ・コネクテッドやモビリティのスタートアップ部門、サムソンの技術デモスペース KX LDN など拠点としている。



カムデン・ハイラインの入り口となる予定

これらの計画にはスポンサーも関心を寄せており、コワーキングスペース「カムデン・コレクティブ」を運営するカムデン・タウン・アンリミテッドが、英国政府の Connected Places Catapult および地元ハイテク企業の Dark Matter Labs と協力して、バーチャル・イノベーション地区「オルタナティブ・カムデン（Alternative Camden）⁶」を創設している。オルタナティブ・カムデンは、伝統にとらわれないオルタナティブカルチャーを次々と生み出してきたこの地区をさらに挺入れするため、例として携帯電話などのデバイス修理のための柔軟な契約形態であるスマート・デジタル契約の展開やライブイベントのためのライセンス取得を簡略化するなど市民主導の都市型ソリューションを探っている。

⁵ 事業者が地区内のビジネス環境を改善するための事業を共同出資で実施している地区。BID の提供するサービスには、歩道や公園の維持管理、治安の改善、マーケティング、施設改善等がある。

⁶ <https://alternativecamden.com/>

それと同時にハイラインの概念実証をさらに進めるため、地元の学校（特に同区のSTEAMプログラム⁷に参加している学校）とともにこの計画の立案に参加できるよう教育プログラムに着手している。一方、この計画の下で創生されたポケットパーク⁸は、政府の出資によりボランティアが主導しており、この計画が地元にもどのように貢献し利益をもたらせるかをより明確に示している。

ベルリン・ラドバーン

ヨーロッパの都市はその形成以来、つねに交通に関する課題に取り組んできた。無線通信の会社を設立したヴェルナー・フォン・ジーメンスは1880年代、ニューヨークに倣ってベルリンに高架鉄道の建設計画を提案したが、ブダペストで計画が実証されるまで、ベルリン市の重鎮らの賛成を得られなかった。この最初の挫折から十年後にベルリン市のUバーン⁹が建設され、今日まで主要交通網であり続けている。それ以来、ベルリンは、クラウス・ヴォーヴェライト前市長が発言した「貧しいが魅力的な（“poor but sexy”）」という評判を享受し、これを活かして、ベルリン市のマーケティング担当者が「賑やかなベルリン（“Berlin buzz”）」と紹介し、ヨーロッパのハイテクハブの一つとしての地位を確立しようとしている。ベルリンのクロイツベルク地区から自然発生したこの計画は、歴史を通じたこれらのつながりが、交通や住宅などさまざまな都市の課題をいかに解決できるかを指し示している。

ドイツ語の自転車「ファーラド」とUバーンを組み合わせたラドバーン¹⁰は、ベルリンの流行発信地となっているクロイツベルク地区に住む若き建築家や都市計画家のグループによって発案された。クロイツベルク地区は、かつてグーグルがハイテク起業家の支援機関「グーグルキャンパス」を開設しようと試みたが、ベルリンの有名な反体制文化による組織的な反対運動によって計画を放棄した¹¹。カムデン・ハイラインと同じく、ラドバーンはクラウド・ファンディングに頼っており、その魅力を政府の政策立案者に訴えていたが、計画の実現のためにドイツ連邦内務省から230万ユーロの助成金というかたちで支援を得ることに成功している。

全長8.9キロの高架鉄道路線計画は、Uバーン1号線の路線下の空地进行を再活用することを目的としている。現在の雑草の生い茂る路地と駐車場の連なる荒れ果てた土地を、すでにカフ

⁷ 科学、技術、工学、芸術、数学の教育分野の能力向上により、若者の将来のキャリア形成に役立つ教育モデル。 <https://www.camden.gov.uk/camden-steam>

⁸ 道路整備や交差点の改良によって生まれたスペースに、ベンチを置くなどして作った小さな公園。 <https://www.camdenhighline.com/>

⁹ ドイツの首都ベルリンを走行する地下鉄。

¹⁰ <http://radbahn.berlin/en>

¹¹ <https://fuckoffgoogle.de/>

エヤ店舗、文化施設などのある活気あふれる地区と並んで、都市の「緑の動脈」を提供する利用可能な未開拓の都市インフラへと創造していく。すべてが計画通りに進めば、ベルリン市民や観光客は列車に乗ったり自動車で道路を走るよりも、新しく道標が掲げられた回廊を歩いたり自転車で走るようになる。しかしこの計画は、ほぼ無償の社会貢献として働く献身的な都市計画専門家チーム（カムデンの計画のようにNPOとして運営）と、ベルリン代表の連邦参議院議員の善意で提供された資金によるもので、広範囲にわたるベルリン市の利害関係者から必要な許認可を得ることが最大の課題である（ロンドンのカムデン・ハイラインの場合、交渉が必要なのはネットワーク・レール社だけであった）。ロンドンの計画と同じく、ラドバーンを推進する都市計画専門家らは、2030年までに自動運転車が大部分を占めることになるであろう都市における、この計画の応用をすでに想定している。



ベルリン・ラドバーンの予定地